

緒方洪庵・武谷棕亭関連年表

		緒方洪庵・適塾・大阪大学関連		武谷棕亭（祐之）・九州大学関連	
和暦	西暦	年齢	事項	年齢	事項
文化7年	1810	0	7月 備中国足守（現岡山市北区）に生まれる		
文政3年	1820	10		0	4月 筑前国高野村（現宮若市）に生まれる
5年	1822	12	1月 億川八重（のちの洪庵妻）が摂津国名塩（現西宮市名塩）に生まれる	2	
8年	1825	15	2月 元服して驛之助から田上驛之助惟彰と改名	5	父・元立がシーボルト門下の児玉順蔵に学ぶ
9年	1826	16	7月 大坂で中天游の塾に入門、緒方三平と名乗る	6	
10年	1827	17		7	父・元立が長崎でシーボルトの弟子となる
天保2年	1831	21	2月 江戸へ出て坪井信道塾に入る	11	
3年	1832	22	12月 ローゼの『人身窮理学小解』を訳了	12	
7年	1836	26	2月 長崎修行のため大坂を出立、緒方洪庵と改める	16	2月 豊後国日田（現日田市）の咸宜園に入門し広瀬淡窓に師事
9年	1838	28	4月 大坂瓦町で医業と蘭学塾（適塾）を開く 7月 八重と結婚 10月 広瀬旭荘（淡窓弟）と出会う	18	
12年	1841	31		21	百武万里・元立が博多大浜で行った解剖に書記として参加
13年	1842	32		22	8月 広瀬淡窓に従い大村藩（現大村市）を訪れ講義を行う
14年	1843	33	8月 次男の平三（洪哉、のち惟準）が誕生 9月 武谷祐之（のち棕亭）が入門	23	6月 伯父・石松重住の次女・桃と結婚 9月 大坂へ行き瓦町の適塾に入門する 高野長英がいた実家に洪庵召喚を伝達
弘化元年	1844	34	高野長英脱獄のため大坂奉行所から召喚	24	
2年	1845	35	12月 適塾を瓦町から過書町（現在地）へ移転	25	
3年	1846	36	春 村田蔵六（大村益次郎）が入門	26	3月 『接痘瑣言』を訳述
嘉永元年	1848	38	8月 佐野常民（日本赤十字社創設者）が入門	28	退塾・帰郷して郡頭取医の元立を補佐
2年	1849	39	4月 『病学通論』を刊行 11月 大坂古手町に除痘館を開く	29	末弟・啓介が原田忍庵の養子（種行、通称は水山）となる
3年	1850	40	冬 橋本左内が入門	30	3月 郡種痘医となり『牛痘告諭』を執筆・配布
5年	1852	42	2月 大島圭介が入門	32	7月 元立没
6年	1853	43	1月 日記『癸丑年中日次之記』を記す（9月まで）	33	
安政元年	1854	44	6月 長与専斎が入門	34	
2年	1855	45	3月 福沢諭吉が入門	35	1月 筑前藩の御城代組医・製煉方御用となる 2月 平勤御納戸組医となり、棕亭と改名 5月 弟・沅芷が実家の医業を継ぎ元立と改名 10月 藩医御匙役となり、黒田長溥の発瘡を治療
3年	1856	46	8月 筑前藩から有吉文郁・篠田正貞・青木道琢が入門	36	8月 藩から3名を推薦し適塾に派遣 8月 参勤交代に従い江戸へ出発
4年	1857	47	1月 『扶氏医戒之略』を執筆 3月 筑前藩主・黒田長溥を診察し西洋事情を話す 9月 筑前藩から前野良泰・塚本道甫・原田水山が入門	37	3月 参勤交代に従い福岡へ出発 3月 藩主の診療の依頼に洪庵を訪問 9月 藩から3名（水山は実弟）を推薦し適塾に派遣
5年	1858	48	1月 『扶氏経験遺訓』発売開始 4月 大坂の除痘館が日本最初の官許を得る 8月 コレラが流行し『虎狼痢治準』を執筆	38	7月 妻・桃が死産後に没
6年	1859	49	秋 平三が長崎医学伝習所に入り、ボンベにつく	39	
万延元年	1860	50	10月 除痘館が尼崎町に移転。『除痘館記録』を執筆	40	
文久元年	1861	51	3月 帰国途中の筑前藩主と面談 11月 『扶氏経験遺訓』出版完了	41	3月 藩主に従い、洪庵と面会 4月 後妻を迎える
2年	1862	52	4月 大蔵谷（現明石市）で筑前藩主と面会 8月 江戸へ行き幕府奥医師となる	42	4月 藩主に従い上京途上、大蔵谷で引き返す 5月 養子を迎え見山と名付ける
3年	1863	53	6月 医学所長屋で急死、駒込高林寺に埋葬される	43	洪庵の訃報に接し心喪50日に服す
慶応元年	1865	7月	三男の城次郎（のち惟孝）がロシアへ留学	45	3月 原田団之助を婿養子に迎え棕山と名付ける
3年	1867	7月	洪哉がオランダへ留学	47	春 藩医学館の贅生館が落成し、督学となる 藩主に上申し洪哉等へ餞別を贈らせる
8月		8月	五男の十郎（のち惟直）がパリへ留学	47	
明治2年	1869	2月	大坂仮病院が発足し洪哉が院長となる	49	
3年	1870			50	棕山がオランダから帰国
4年	1871			51	8月 長溥に従い東京に転居
5年	1872		惟準が東京神田駿河台に「適々斎塾」を開く	52	贅生館が廃校となる
6年	1873			53	9月 末弟・原田四郎（水山）没。棕山が原田家に復籍し俊三と改名
9年	1876	6月	東京適塾で洪庵14回忌第2回懐旧会開催	56	6月 洪庵14回忌第2回懐旧会に参加 12月 豊（のち水城）を婿養子に迎える
10年	1877			57	1月 秩禄処分後も長溥に自費奉仕 5月 福岡に帰る
12年	1879			59	4月 県立福岡医学校開設
19年	1886	2月	八重没	66	
20年	1887			67	3月 長溥没 12月 長溥伝記編纂のため上京
21年	1888			68	4月 県立福岡病院開設 9月 帰郷
25年	1892			72	棕亭の寿碑が「福岡市外東公園」に建設（長与専斎撰）
27年	1894			74	2月 死去
36年	1903				3月 京都帝国大学福岡医科大学創立
44年	1911				1月 九州帝国大学創立
昭和6年	1931	5月	大阪帝国大学創立		
15年	1940	7月	適塾が大阪府史跡となる		
16年	1941	12月	適塾が国史跡となる		
17年	1942		適塾が緒方家から国へ寄付され大阪帝国大学の管理となる		
平成23年	2011	4月	大阪大学適塾記念センター設立		
27年	2015			4月	九州大学医学歴史館開館